

# 小田原史談

第44号

談目内  
史一丁館  
原幸化  
小田原市  
所原土  
發行所  
小田原郷

## 名代官市丸又四郎高重

### 事績

小田原藩後期大久保二代城主出羽守(加賀守)忠増時代に、播州(兵庫県)内海沿いに、小田原藩が領有して居た土地があった、富士山永山噴火に由りての荒廢代替として同地に多可、加西、印南など十六ヶ村を加へて百七十四ヶ村を佐倉時代より六十五年間領地として支配した。その時宝永・正徳・享保三年まで約二十年間印南郡中島邑に播州領地の代官として、一丸又四郎高重が派遣された。當時加古川支流にはさまれた中島一帯は底地の為め、毎年水害を被り、住民が困窮を極めた処を、一丸代官に依つて竹木を植え、弁財夫・稻荷社を安置し仁慈徳政を施し、其地を安定し、福利増進せる徳を称讃せられ

小田原に現存せる事が判明し小田原有信会副会長川上刀根五郎氏に依り其事績が調査考証され、有信会報に發表せられ貴讃された。其子孫一丸光治氏は現に小田原市内伊勢田屋家具店を経営されつつあり、当主は八代目なりと。中島住民の方々が永い間小田原に市丸氏の子孫を尋ね求められたるに昭和四十年に至り漸く判明し、原地北条町代官屋敷の五百羅漢にある墓は一丸とあり、五里離れた高砂市伊保町中島には市丸とあり同一の又四郎高重代官である。恵正院釈妙慶と当小田原市の善堤寺正恩寺の過去帳と全く一致し確実なる事が認められ、七月廿八日、照介役の奥津介佐氏と現地の代表中野壯二翁一行四名と佐藤謙吉有信会長と鞆川正恩寺住職と川上刀根五郎副会長とにて正恩寺にて代官夫人恵正院釈妙慶靈位俱

に供養を営まれた。それより八月二十日市丸廟の例祭に現地一丸夫妻、鞆川住職と川上刀根五郎氏が参加した。当日は初の子孫参詣として特に記念祭とし中領高砂市長並に籠谷同市会議長が臨席せられ、住民一同百余名厳肅に祭祀感謝の法要が営まれ、高砂市長より故市

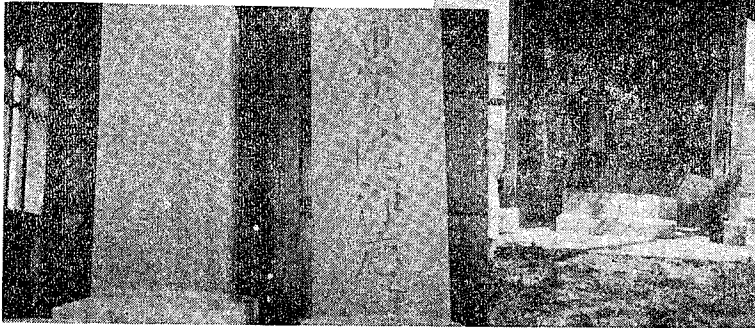
九代官の功績を誉め称え、子孫参列の喜びを述べられ過去二百五十年中絶の地元のお方と今親しく連絡を保たれたるを悦び合へりと、尙十二月廿四日現地の初戸新聞に其地を公園として残す為植樹式が行はれたる由報道がありました。

### 史実

#### 清水専吉郎

昔より言いおくとか、聞きつたえの形で、今に継がる事柄が、永い年代の間断続して、うる覚えになった時分に前掲の一丸代官の事績のように現存のものに符合し、史実となつて判明し考証よりも実在する事が屢々ある。天正十八年七月十一日北条落城の際、出城の城主将が、多く城中にて打死した中に、清水右近将監正豊があり、豆州下田の城主清水上野介など一族の子孫が離散して沼津に落ち延びし者と、小田原在飯田岡に戦後居住せし者があり、此両家に相互に話が伝はり居り、三百余年十六、七、代経し昭和の今日、両家が判明して訪ね合い、昭和卅七年相会い、沼津の清水潔は東郡練馬石神井に現住し沼津市来運寺及び西光寺に十六代(現廿代)の墓石あり。小田原の清水家は十字町運昌寺に十五代の墓石が連綿としてあり、両家のそれ以前の墓が河津の三養院に三養院殿喜翁祖敷大居士の墓ある事実が判明した。上野介正令(清水院前上州

(写真) 市丸廟内に立てる  
お墓と頌徳碑



刺吏日徹大居士」と右近將臨正豊（善見院殿序把日在大居士）とは兄弟にして其子孫が徳川参勤交替制の始め、飯田岡清水新田（相模風土記）より小田原の宿連り現在の処に移住し、大清水、小清水、とて本陣、脇本陣を営めり。依って昭和卅七年五月廿一日岡家当主、清水潔と、清水専吉郎は

### 昭和四十年十月本間薫山米国行のみやげ話

橘本整之介

はしがき

戦後進駐軍に没収されて海外に持ち出された旧国宝、重要美術品の刀剣は、四十一であるが、なかなしく惜しまれたのが鹿児島の、照国神社の国宝国宗の太刀であった。ところがアメリカの大親日家である愛刀家、ドクター、コンプトニが、之を彼の地で入手して無償でわが国に返還して下さったのは昭和三十七年のこととであり、もちろんわが国の愛刀家一同が感激したが中でもこの太刀が国宝に指定された時、そしてこれが没収された時の文部省の当局者で有った本間氏の感激は大きかった。このドクタ

伊豆下田に趣き祖先の城跡（現下田城山公園）を三津木国輝氏とともに見聞し、河津在三義院に詣で祖先を供養せり。斯くの如く三百余年に渉りはのかに聞き伝えられたるものが、現実と一致し史実となった。かか二列もあり伝説や、口碑は疎かにならない。史実につながるものがまますある。

た次第である。

アメリカの愛刀家ドクター・コンプトンほどに総合的に見て立派なコレクターは

当今わが国にも少いのではなからうか。まず感心されることは収蔵庫兼勉強室の立派なことで耐震耐火の用意だけでなく温湿度調節が出来る設備である。コレク

ションの中に国宝、重文、重宝はもちろん存在しないが、アメリカのいすれの美術館よりも良刀が多くこれらものは引出し時代別、系統別に整然と納められており、詳細に記録した台帳が出来ている。取あつかいがまことにいいで近年研ぎ上げたとおもわれるものにはヒゲがほとんど見当らないし、柄のかたいものには必ずあて木をあてて軽くたたいて抜いている。客

委員会が開帳中の日本古美術展を視察し、最後にサンフランシスコにまわり、その地方の好者の会に出席し、近郊在住の終戦当時に美術刀剣を保護するために非常にお世話下さった、元憲兵司令官キヤドルウェル大佐夫妻を訪問し、翌日帰除について十月十九日一ヶ月で無事羽田空港にもどつた次第である。

アメリカの愛刀家ドクター・コンプトンほどに総合的に見て立派なコレクターは

当今わが国にも少いのではなからうか。まず感心されることは収蔵庫兼勉強室の立派なことで耐震耐火の用意だけでなく温湿度調節が出来る設備である。コレク

ションの中に国宝、重文、重宝はもちろん存在しないが、アメリカのいすれの美術館よりも良刀が多くこれらものは引出し時代別、系統別に整然と納められており、詳細に記録した台帳が出来ている。取あつかいがまことにいいで近年研ぎ上げたとおもわれるものにはヒゲがほとんど見当らないし、柄のかたいものには必ずあて木をあてて軽くたたいて抜いている。客

に披身を渡す場合には両手で握り、必ず棟を向けてさし出している。これらのことに加えて感心させられたことは刀剣、金工の書籍が多いことで、昔からわが国で出版された著名の刀剣書は大半揃っており、さらに外国出版の全工本もあって大いに参考になった。いまさらながらおもったが、ドクター・コンプトンほどの鑑識者であれば、国宝国宗のよさはご自分のコレクションの中で第一位のものであることを十分知る筈である。にもかかわらず古美術品はそれを将来に保存するに最も適切な場所に置くべきであるという信念から国宗を日本に返還して下さったことに対して無限の敬意を表さざるを得ない。ところで、このたび拝見したコレクションの中に幕末の刀工清人の傑作があり清人は私と同郷の庄内の産で有ることを話したところが、それでは彼を庄内支部の致道博物館に寄贈したいとの申し出があり、一貫した信念に感激して有難く頂戴して帰った次第である晩年は日本にすみたいとの気がおるものの一見古備前ものと

に歓迎し交友を深めたい拜見したコレクションは三九一口の中にはすでに協会の認定書つきものが多く特別貴重となっているもの並びにこれと同格のものが約一四〇口あり、その中でさらに重要刀剣の候補となるものが、二〇口以上その中では左記の二二口であり、この中には少なくも重宝に匹敵すると思われるものがある。無名一文字と大磨上行光はアメリカで購入されたものとのことである。

1 太刀無銘一文字糸巻太磨

2 太刀銘一磨上

3 太刀銘備州長船住景

4 大刀銘備州長船近景

5 大刀銘備州長船元信

6 短刀銘備州長船長義

7 大刀銘備州長船家助

8 刀 大磨上 行光

9 短刀 行光 朱銘

10 短刀相模国住広光

11 刀銘 繁慶

12 刀銘 和泉守国貞

なお貴重な研究とおもわれるものに一見古備前ものと

みられる生ぶ茎の太刀で、広光と二字銘のものが有り、銘振も古雅で偽臭が感ぜられない。また、上位の作はないが阿州住泰氏の脇差があつて一派の作中では名物岩切に優るほどの出来であつたことと村正の出色の槍があつたことが記憶に残るまた水心子正秀の刀脇差が大目もあつていづれも正しい佳作であることに感心したが、その後に見た美術館の蔵刀中にも水子が数々あつていづれも正真であつた。おもうに新々刀の偽物が出る以前の明治年間に海外に流出したものであろう。

ポストン美術館の蔵刀、まず、館長ラスボン氏前東洋部長富田幸次郎氏が私共を大いに歓迎して下さいましたことに感謝することの現在の蔵刀数は五七五口とのこと

でこれを納めている地下室の戸棚の前にテーブルを置き予定のごとく十月五日から八日に至る四日間に見つて調査したが三二五口を見終つただけであつたドクター・コンプトン加へてこの日から刀華会の遠藤利平君が遠来手伝つて下さつたので大いに助かりさらに先日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

康安二年十月 日

まで日本の岩国駐在の米軍飛行隊におり当時から懸念の闇柄であるハートレイ大佐(現在海軍大学教官)も応援に参加したことも嬉しかった。官員一人がつききりで熱心に入入をして下さったことはもちろん有難かった。大体この刀剣は明治年間に日本美術品の蒐集家として聞えた、ビゲロー氏その他の人々が、日本で購入したものを寄贈したものであり、その時は大名華族が家伝の名刀を未だ売り出していなかった国宝宝文級の健全な古名刀はないこととはやむをえないが一応は各時代の著名士の作が有り江戸後期より明治に互るきれいな拵のものが沢山あって多彩である刀身の特別貴重級のものは七八口あり、左記のものはその中の出色のもので重要刀剣候補と云えよう。又拵の特別貴重級は五十数口を算せられ、ほぼ挑山時代と思われる保存の良い糸巻太刀が二口もある。

- 6 太刀銘 備前長船兼光
- 7 大磨上 兼長
- 8 太刀銘 備州長船盛重
- 9 大磨上 来国次
- 10 短刀銘 尻懸則長
- 11 越前住下坂
- 12 刀銘 出羽大塚藤原国路
- 13 刀銘 山城国清
- 14 太刀銘 山城大塚藤原国包
- 15 刀銘 越後守包貞
- 16 刀銘 出羽守日置光平
- 17 刀銘 水心子正秀
- 18 刀銘 莊司筑前守直胤

- 19 刀銘 備前守宗次
- 20 刀銘 栗原筑前守信秀
- な お本館には破れは多いが伯耆守安綱正銘の太刀が二口あり台帳の上では重視しているものに三条吉家作と伝へる古家二字銘の磨上の太刀があるが、かつて同作に見えない大振銘であるので今後さらに研究したい。よい小道具が相当あるときいていたが、それを見る時間になかったことが残念である。

### 花柳界より見た小田原 明峯記

### 明峯記のしり馬に乗って

### 内田 武雄

- 待合 梅松館込山いち 幸一
- 待合 如月青木シマ 幸一
- 待合 日吉鈴木武一 幸一
- 待合 喜良久浅倉弥四郎幸一
- 待合 萩之家内田イノ幸一
- 待合 鉢金増山ツタ 幸一
- 待合 富久よし石川ヘナ幸一
- 待合 喜久家加藤サダ 幸一
- 待合 田毎田中フヨ 幸一
- 待合 紅葉藤城信義 幸一
- 待合 嬉野杉村サワ 幸一
- 待合 琴富喜近藤トキ 幸一
- 待合 松登喜青木キミ 幸一
- 待合 水雷寺剣持林蔵 幸一

- 待合 伊勢竹山形フク 幸一
- 待合 みやこ片野仙太郎幸一
- 待合 あさひ飯沼フミ 幸一
- 待合 丸登穂坂米吉 幸一
- 待合 松之湯菊地政吉 幸一
- 待合 だるま広沢吉蔵 幸一
- 待合 弥生鈴木フサ 幸一
- 待合 金芳小黒トモ 幸一
- 待合 森山戸塚セイ 幸一
- 待合 丸梅館宮嶋彦造 幸一
- 待合 松月館高原ナツ 幸一
- 待合 時本大津ミキ十字 幸一
- 待合 藤本重治十字四 幸一

中には春を売る婦人もあらわれてきた。そこでこまごまの相場がきまっている。お百姓が野良のかえりに、居酒屋で一ぱいひっかけ、いゝころもちになつていて左りづまの芸者さんにこえをかけられ、歎をほうりだして、料理屋へ上りこみ、いきなつめびきでうつゝをぬがし一日ぐらいはかえつてはこず、あくる日になると引馬と言う馬をつれて家にかえて来る。今考えて見るとそうそうも付かない。当時あのせまい駅前小料理屋と旅館で十八軒もあつた。今の神保旅館(さかや)浅野屋、若菜、入金、日吉屋、八幡屋、富士屋、坂口屋、たけのこ屋、兼好、福寿、丸登、初ノ家、京升屋、里の屋、磯の屋、時本、カド屋などで芸者さんは常に十三人ぐらいたつたのである。芸者さんの中にもはりのこのだるまと言われた。京升屋の梅こうさん、この人はころびそうどころはないと言つたところから、はりのこのだるまのいめいを取つたのである。次に助六、米本の米寿、里の家のみかん、ちゃんどれもお

昭和の初項は花柳界の発展の何如に依つて町の繁栄が多少判断される程であつた小田原市も昭和の初めは町であつたが花柳界では県下有数な土地とされて居たのであつた。町勢の一端として又世の移り変りの激しさを知る参考にも大切な紙面を借用して見たいと思ひます。調査は昭和五年のものです。

- 小田原二業組合員家号及住所氏名
- 料理 花菱 岡田傳久幸二
- 清風楼中山徳三郎万年四
- 待合浜中 中山留吉万年二
- 料理 春日松尾寛三郎幸一
- 待合若竹坪并治郎兵衛幸一
- 料理 柏又兼本倉治郎幸一
- 料理 宝玉字佐美倉造幸一
- 待合 福壽若本重太郎幸一
- 料理 田中屋山口徳次郎幸一
- 待合 開化開沢好次郎幸一
- 料理 山本館山本修悦万年三
- 料理 橋本金子ハマ万年三
- 料理 片野屋大南久吉万年三
- 料理 魚長和田英輔 幸一
- 料理 養心亭細谷謙次郎幸一
- 料理 大松剣持セン 幸一
- 待合 金月本田シマ 幸一
- 待合 入船野村菊枝 幸一
- 料理 新時植邑吉太郎 幸一
- 待合 一力長野角蔵 幸一
- 待合 一の字杉本徳次郎幸一
- 待合 喜奴田古怒田ハナ幸一
- 待合 登喜和梅山マツ 幸一
- 待合 清新館清水ギン万年四

今年は丙午の年である。「甲州の黒駒の勝蔵」と言へばだれでも知っているが聖徳太子の愛馬「黒駒」は甲州産で山梨県東八代郡に現在も黒駒村がある。こゝが聖徳太子の愛馬の出産地黒駒村である。浪曲でおなじみの黒駒の勝蔵も同じ村の産である。

聖徳太子は愛馬黒駒にまたがって雲中を天駆けて富士登山をされ更に、越後、越中、越前を三日間でかけめぐり都へおかえりになったと聞いているが、私はこのたび明峯記のしり馬に乗って、小田原から一むち、

おけつをたゞいて、うまくかけるか書けないか、下曾我的花町をのぞいて見よう鎌倉時代の下曾我は六本松街道で山ごしの客も多く明治から大正の末ごろまでは下曾我別所に富士屋と言はたごや、と、室田屋と言ふ料理屋があり、旅人のいろうにわ國府津から芸者が来たり、めしもり女のさあびすもよくだいそうにぎわつたものである。大正十一年下曾我駅が出来てから、たちまち駅前小料理屋が軒をならべ、べったりと首にお白粉をぬりたぐつた女があらわれるようになった

とらぬれしぞろい、今の横濱正金銀行の所にカド屋と言ふカフエーがあつて、その女給さんにおたねちゃんとお春ちゃんがい

田島古墳発掘について

杉崎正五

図らずも今度農業構造事業の一環として、樹園地造成のため、山林地帯の開墾をする事となり、その中に

田島には、弁天山十一、風外窪十一、高山四、不明二根岸四、と四ヶ所に古墳群があり

もあつた。だがたんなるとねるが出来て東海道線がかわると共に下曾我の色町、

大体二米位の羽子板状をして居り、屈葬と思はれた所骨は入口より二米入った所

知らず、史談に花を咲かせてしまいましたが、誌面を以つて御多忙の所わざわざお出下さいまして御

一本、左側に須惠器自然の良く出た壺一ヶ、須惠器長首碑二ヶ、碗一ヶ、皿一ヶ

の位地を郷土の土豪たちの動きを追うことよつて解明している。従つて、郷土

雄、山口貢、金子皓彦、中村静夫諸先生の援助を得て田島史談会員によつて発掘

た發掘されたが、他の十ヶの穴に比して特別に小さかつた發掘は横七〇縦二米六

弁天山古墳の特長としては皆遺体は二体づつある事、土器、刀等が必ずある事

第三回久野史談会初詣久野史談会では、第一回の寒川一ノ宮、日向薬師方

久野史談会では、創立(昭和三十年)以来会長の職に就いて居た山田一郎氏の

まず高山古墳の様子を報告致しますと、山林の急傾斜の位置に天上の落ちた古墳

の中央に此れ又屈葬と思はれる遺体一ヶを発見したのみ、副葬品は一ヶも発見出

山古墳より大きき大きいし、高さも高い、周囲に溝を掘り中央にも縦に溝が掘

久野史談会では、第一回の寒川一ノ宮、日向薬師方面、昨年の鎌倉鶴岡八幡、

久野史談会では、創立(昭和三十年)以来会長の職に就いて居た山田一郎氏の

致しますと、山林の急傾斜の位置に天上の落ちた古墳を発見したので、此の古墳群は千代台より田島と

を除いては、何の記録も残つて居なかつたのからうなづける貴重な参考となりま

二、三十ヶ此れは骨又は鉄製品、その前に、横碑一ヶ(文化館にあり) 両側に壺二ヶ、皿二ヶ、首かざりの

久野史談会では、第一回の寒川一ノ宮、日向薬師方面、昨年の鎌倉鶴岡八幡、

久野史談会では、創立(昭和三十年)以来会長の職に就いて居た山田一郎氏の

今度のは山の斜面の関係で東南向きで、横六〇縦、従一米二五の羨道があり、

念でしたが、遺体は元の位置にみかん菓子等をそなえ全員整列饗経の上埋葬して

二ヶ、皿二ヶ、首かざりの壺二ヶ、首かざりの壺二ヶ、首かざりの壺二ヶ、首かざりの壺二ヶ

久野史談会では、第一回の寒川一ノ宮、日向薬師方面、昨年の鎌倉鶴岡八幡、

久野史談会では、創立(昭和三十年)以来会長の職に就いて居た山田一郎氏の

他の古墳は南向きですが、今度のは山の斜面の関係で東南向きで、横六〇縦、従一米二五の羨道があり、

念でしたが、遺体は元の位置にみかん菓子等をそなえ全員整列饗経の上埋葬して

二ヶ、皿二ヶ、首かざりの壺二ヶ、首かざりの壺二ヶ、首かざりの壺二ヶ、首かざりの壺二ヶ

久野史談会では、第一回の寒川一ノ宮、日向薬師方面、昨年の鎌倉鶴岡八幡、

久野史談会では、創立(昭和三十年)以来会長の職に就いて居た山田一郎氏の

今度のは山の斜面の関係で東南向きで、横六〇縦、従一米二五の羨道があり、

念でしたが、遺体は元の位置にみかん菓子等をそなえ全員整列饗経の上埋葬して

二ヶ、皿二ヶ、首かざりの壺二ヶ、首かざりの壺二ヶ、首かざりの壺二ヶ、首かざりの壺二ヶ

久野史談会では、第一回の寒川一ノ宮、日向薬師方面、昨年の鎌倉鶴岡八幡、

久野史談会では、創立(昭和三十年)以来会長の職に就いて居た山田一郎氏の

今度のは山の斜面の関係で東南向きで、横六〇縦、従一米二五の羨道があり、

念でしたが、遺体は元の位置にみかん菓子等をそなえ全員整列饗経の上埋葬して

二ヶ、皿二ヶ、首かざりの壺二ヶ、首かざりの壺二ヶ、首かざりの壺二ヶ、首かざりの壺二ヶ

久野史談会では、第一回の寒川一ノ宮、日向薬師方面、昨年の鎌倉鶴岡八幡、

久野史談会では、創立(昭和三十年)以来会長の職に就いて居た山田一郎氏の

新役員 会長山崎益太郎(久野坊所) 副会長磯崎憲次(舟原) 同 下田芳太郎(中宿) 同 同書委)立木望郎(中宿) 同 同書委)岸達志(中宿) 幹事 山田新平(中宿) 同 小野 薫(中宿) 同 杉崎 米蔵(星山) 同 湯川耕作(坊所) 以上